

## 水稲新品種「ハマカゼ」について

橘高昭雄・向井康・上野貞一・衛藤信男

(宮崎県総合農業試験場)

KITSUTAKA, A., MUKAI, Y., UENO, S., and ETO, N.

A New Rice Variety "Hamakaze"

昭和43年本品種の育成を終り、昭和44年より宮崎県で奨励品種に採用され普及に移されることになったので、育成の経過および特性の概要をのべ参考に供したい。

### 来歴および育成経過

昭和35年宮崎県農業試験場において「瑞豊」を母とし「西海62号」を父として人工交配をおこない、以来同場において系統育種法により選抜固定をはかったもので、昭和38年から宮系1429として特性検定に、昭和40年より「南海37号」の系統名で関係県に配付し地方的適否を確かめてきたもので、昭和44年(F<sub>10</sub>)水稲農林 204号に登録され「ハマカゼ」と命名された。

### 形態的特性

タチカラより5cm程度稈長が短かく、穂長も若干短い短稈穂数型梗種、葉はやや細く、短かく、直立型で葉色は濃い。穂には短芒が少しあり粒着は中位、脱粒性は農林18号、瑞豊程度の易。玄米は晩生種としてはやや小粒だが心白腹白の出現は少なく、農林18号、タチカラより良質で食味もすぐれている。

### 生態的特性

出穂成熟期は農林18号、タチカラにくらべて1～2日おそく、瑞豊より4～5日早い晩生種、倒伏抵抗性は極強で、タチカラより更に強い。病害抵抗性は葉いもち、穂いもちはホウヨク、タチカラ並みの弱、白葉枯病には九州に一般に分布する普通の菌系には全勝26号の遺伝子をもち強(タチカラ弱、農林18号やや強)紋枯病には中～やや強と判定されている。

### 適地および奨励品種採用県

熟期からみて対照地帯は宮崎、鹿児島 の平坦部に限られる。宮崎県では瑞豊、農林18号、タチカラなどにおきかえるため、昭和44年より奨励品種に採用された。

第1表 一般特性

項目	ハマカゼ	タチカラ	瑞豊
出穂期	9.7	9.6	9.11
成熟期	10.24	10.23	10.31
稈長 (cm)	78	84	109
穂長 (cm)	19.0	20.2	21.8
穂数 (本/株)	18.7	17.2	14.5
芒の有無・長短	少・中	無	無
稈先色	白	白	白
脱粒性	易	難	易
倒伏抵抗性	強	やや強	弱
葉いもち病抵抗性	弱	弱	弱
穂いもち病抵抗性	弱	弱	弱
白はがれ病抵抗性	強	弱	やや弱
a 当玄米重 (kg)	51.3	50.4	47.0
玄米千粒重 (g)	21.9	23.8	23.9
玄米品質	上下	中中	上下
調査地	宮崎県総合農業試験場		
調査年次	昭和40, 41, 42, 43, 年平均		

第2表 収量比較

試験場所	調査年次	ハマカゼ	タチカラ	瑞豊
育成地	昭39～43	107%	107	100
宮崎農試本場	昭40～43	111	107	100
〃 都城支場	昭41～43	99	100	—
鹿児島農試	昭40～42	114	105	100

### 栽培上の注意

多肥栽培向きの短稈種ではあるが、いもち病には強くないので、穂いもち発生が多いところは注意すること。短稈種なので極端な瘠薄地には適さない。

### 命名の由来

適地が沿岸平坦地であることを示す。